



■ 稚内市長 工藤 広

皆さん、こんにちは。今ご紹介をいただきました北海道の稚内市の市長をしております、工藤といいます。私どもの町はご案内のとおり日本の一番北にあるわけでありましてけれども話をしていると長々となりますので、今日は手短に3つの言葉をもってわが町をご紹介したいと思います。後ろの方にスライドが映し出されておりますけれども、一つは「国境」、一つは「環境」、一つは「秘境」。この3つの言葉でごくごく簡単にご紹介をさせていただきますと国境というのはまさにこのスライドにも出ておりますけれども、日本の一番北、対岸はロシア極東の島、サハリン島、かつての樺太、という島と国境を接しております、そこまでの距離が43km、国内の隣町までの距離が40kmということでまさに、北の果て、北の日本の一番北にある、それがわが港であります。今は定期フェリーも国際航路として結ばれているということでそれがまず一つの特徴であります。もう一つは環境であります。わが町には今74基の風車がたっておりまして76000kwの定額出力を持つエネ

ルギーの街でございます。来年はさらに3万kwの風車がたちまして、トータルで言うと10万kwを超える風車の実稼働する、この発電量というのは、比較するとわが町が年間消費している電力の100%を超える量であります。今でも90%近くをその風車で賄っている、そんな街であります。3つ目の秘境、これは実はわが町、少ないとはいいながらも人口3万6千人の街でありますから決して秘境ではないと思っておりますけれども隣町を、隣に島が2つあります。それで国立公園が形成されておりますけれども、その利尻島、礼文島を舞台にした、実は一昨年、吉永小百合さんが「北のカナリアたち」という映画を作って上映されました。その時の製作の時のキャッチフレーズが「日本に残された最後の秘境」というキャッチフレーズでありました。私どもの町はその利尻島、礼文島への玄関口ということで是非この3つの言葉を覚えていただいて何かの折にですね、ぜひわが町においでをいただければありがたいなという具合に思っておりますし、私どもの町、実は当然日本海でありますから、北陸にルーツをもつ市民がたくさんおります。そういう意味ではこの町にも大変ご縁を感じておりますので今後ともどうぞお付き合いをいただくことをお願い申し上げます、わが町の紹介といたします。ありがとうございます。